

平成26年度 京都市立西総合支援学校 研究発表会  
「子ども一人一人の将来の生活を見据えた教育や支援・手立てについて  
～個別の包括支援プランを根幹に据えた子どもの継続的なキャリアアップを目指す～」

# 多様なかかわり方が継続的な支援と キャリアアップを生む

- 「できますシート」による情報連携 -

立命館大学 中鹿 直樹

2015年1月30日

# 支援の断続が継続的支援と キャリアアップを生む —「できますシート」による情報連携—

# 本講演の目的

- ・「できますシート」の機能について考える

## 本日の内容

1. 「できる」とキャリアアップ
2. 「できますシート」の機能
3. 情報の共有・伝達

### 2つのポイント

- ・「できる」は環境との相互作用
- ・援助付きでも「できる」

# 1. 「できる」とキャリアアップ

# 学生ジョブコーチの取り組み

- ・援助付き雇用 (supported employment)
  - ・援助を前提とした就労の形態・考え方
- ・ジョブコーチ
  - ・援助を行う職業的な援助職の一つ
  - ・障害者が職場に適応する際に、当人と一緒にあるいは先行して職場に入り、一定期間、職場において支援を行う

# 援助付き雇用

- Supported Employment
  - Supportedとは？

# 行動の分析枠

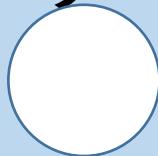
- ・前後の状況（先行条件と後続条件）の中で、はじめて行動が成立する（“できる”が生じる）
- ・先行条件 – 行動 – 後続条件  
(ABCの枠組み 随伴性ともいう)

# 随伴性その1：二項随伴性

- ・ペンギンが



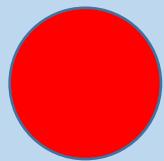
モニターの円を押す ⇒ エサが出る



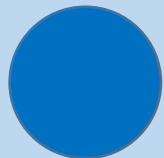
モニター上の円を押す反応の増加

エサ という後続条件が重要

# 随伴性その2：三項随伴性



赤い円 - 押す ⇒ エサ出現



青い円 - 押す ⇒ エサ出現せず



# 刺激性制御と三項隨伴性

- 赤い円のときは 円を押す反応は 増加  
⇒ 赤い円は先行条件の働きを持つ

※ここで大事なのは、  
どんな刺激のもとで、反応が生じ、  
どのような結果につながったか

# 刺激性制御と三項随伴性

- 先行条件-反応-後続条件  $S^D - R - S^R$   
この関係を三項随伴性と呼ぶ
- ABC分析とも  
(Antecedent – Behavior –  
Consequence)

# 分析枠の例

## 自傷行動の分析

- Aさん

好きな職員 - 頭をぶつける - 話しかけてもらえる

- Bさん

目の前に宿題 - 頭をぶつける - 宿題をやらずに済む

# Supportedの意味するものは

- ・先行条件の設定
- ・後続条件の設定
- ・それらをふまえての、行動の教示の仕方

「できる」とは、特定の具体的な条件のもとの行動  
⇒すべての「できる」は、supported である

# 「できる」とは

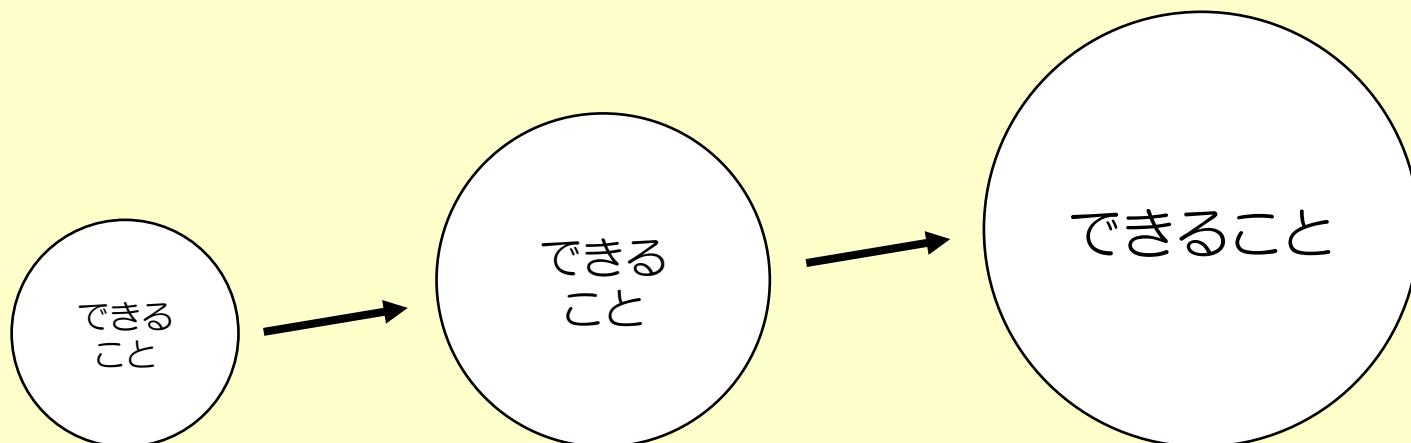
- ・当事者が 自らやりがいをもってすること  
⇒正の強化で維持される行動
- ・「行動」：先行事象—反応—後続事象  
という枠組み（三項随伴性）として出現
- ・ジョブコーチ支援：先行事象/後続事象 の補助
- ・援助付きの「できる」

# 援助

- 伝えないとわからない
  - 情報の意義
- 試してみないとわからない
  - 試す場面の意義
  - 試すことで、情報は拡充・加速する

# キャリアアップ

- ・本人がやりがいを持って「できる」ことが拡大していくこと
  - ・行動的QOL



## 2. 「できますシート」の機能

# 「できますシート」の大きな機能

- “消極的な” 機能
  - 過大な評価にならない
  - 不足な評価にならない
- “積極的な” 機能
  - 次につなげる

# 過大な評価となつた例

- ・支援学校高等部から一般企業に就職したXさん。
- ・在学中から、電卓を使った計算問題に取り組み、電卓の検定も受けていた。
- ・学校から企業へ「電卓を使った計算ができる」

# 「できる」の表現

- ・ペンギンの動画
- ・ペンギンは何をできた/できる  
ということができるのでしょうか？
- ・⇒「 長さがわかる 」 ×
- ・⇒「 長さの違う2本の線分を示されて  
長い方を選ぶことが できる  
正しい選択にはフィードバックとエサ」 ○

# ○○できる とは？

- 料理ができる、英語ができる …  
他にもいろいろな「○○できる」を思い浮かべて、  
○○できる、とは具体的にどのような  
先行条件、行動、後続条件がそろうことなのかを  
考えてみてください
- ○○できる、というのは環境から独立したひとつの能力で  
はなく、ひとつひとつの環境(弁別刺激・強化子)と言う文  
脈の中での何らかの相互作用であることがわかります

# 「できますシート」項目

できますシート（できるを次の展開につなぐ）

記入者

だれが	いつ	No.
いつ	どこで	
だれと		

状況づくりと支援

1

ゼッティング アプローチ

こんなことができた

2

まわりの反応や対応・「もの・こと」の変化

3

こんなことができる

新しいことをつなぐ  
（「できる」を活かす次の画面、次にできそ  
うなこと等）

00

確認したいこと

# 「できますシート」の構造

- ・シート内に書かれた項目の機能
  - ・手だけ
    - ・セッティング
    - ・アプローチ
  - ・こんなことができた
  - ・できることで、周りの反応や対応はどう変わり、子どもにどのように返ってきたか
  - ・確認したいこと
  - ・新しい「できる」のアイデア

# 「できますシート」

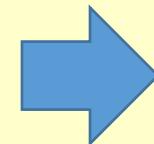
0. だれ・いつ・どこで・だれと
1. セッティングとアプローチ  
：状況づくりと支援
2. こんなことができた
3. まわりの反応や対応・「もの・こと」の変化
00. こんなことができる・確認したいこと  
+ 新しい「できる」のアイデア

# 機能は

- ・対象児童・生徒の現時点での
  1. できていることを 表現して
  2. 次のステップに つなげる

＝他の場面、次の支援者、移行先 etc…  
(含 明日の同じ支援者)

⇒そのためには、  
行動を具体的に表現する必要



脇坂・朝野(2011)  
参照

# 現時点での「できる」から 次の「できる」のアイデアへ

## 1. 現時点での「できる」

川の音—顔を近づける—音が（大きく？はっきり？）聞こえる

## 2. 音が先行条件、後続条件として機能する

音が聞こえる、音を楽しめる

2から3へは、大きなジャンプがあります。ここは創造的な仕事です。

## 3. 次の「できる」へ

音を先行条件とした仕事／音を後続条件にした仕事

# 「できますシート」の機能

- 「1. セッティングとアプローチ」は  
行動の先行条件 にあたるもの
- 「3. まわりの反応や対応・「もの・こと」の  
変化」は  
行動の後続条件 にあたるもの

# 対象児童・生徒の 今の「できる」は

- ・方法 の 1) 対象生徒 から  
対象生徒の「できます」を考える
- ・そこから「できる」ことを表現する
- ・次につなげるアイデアは

# 「できますシート」のメリット

- ・「できる」を単独の“能力”として扱わない
  - ・環境との相互作用の中でとらえる
- ・児童・生徒の「できること」に目を向けるツールになっている

# 継続的な支援

- 支援は、短期的・断続的支援のつらなり
  - そのことを継続的につなげる

### 3. 情報の共有・伝達

行動の増減 자체は価値的な意味は持たない。  
(中略) つまり、望ましい行動が量的に拡大したとしても、関係者がその行動に関して「望ましい」という言語行動を自発しなければ、「望ましい」行動は形成されていないのである。

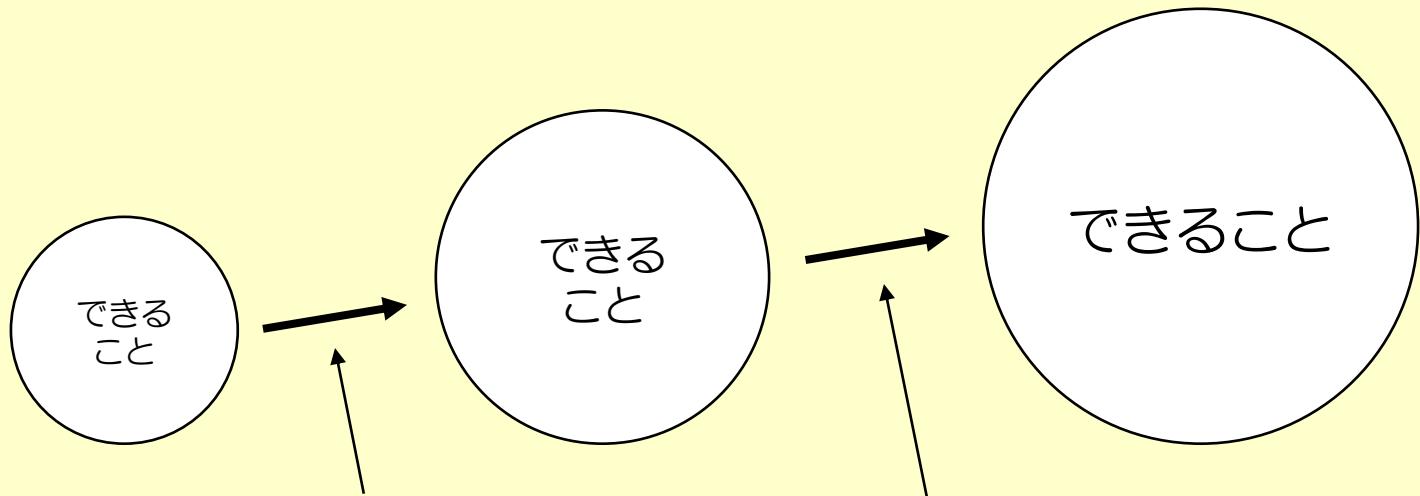
また、行動そのものが社会的に役に立つということも本質的ではない。関係者が「社会的に有効である」という言語行動を自発してはじめて、社会的に有効な行動が存在するのである。

※出口 光；1987. 行動修正のコンテクスト.  
行動分析学研究, 2, 48-60.

# 学生ジョブコーチでの経験

- 対象生徒さんの「できる」を伝え、返ってくることば…
  - 「ありがとう」
  - 「そうですね、それは前からできていました」
  - 「なるほど、それなら次はこうできるかも」
  - 「やってみたけど、学校ではできなかった」

# 情報ができることを増やす



# 学生ジョブコーチ支援による 模擬喫茶店舗で情報を作る

- ・情報を「作る」という表現？？
- ・場面、環境込での行動
- ・試すことでわかる「援助」
  - ・試してみないとわからない
  - ・試すことで「できる」ことを発見、記述することができる

# 事例1：「いらんことしい」と評されるCさん『これ』をつけて「できる」に —ポジティブな評価のための「役割」創造—

- 本人：成人（移行支援施設から実習へ）
- 状況：市内ゴルフ場でのボール磨き

課題：【既存の表現：評価】 他の人のやることに  
「余計な」口を出して、自分の作業がおろそか

# 「できる」の設定への変換

## ● 当初の要望

作業中は声を出さずに作業に集中するようとする。

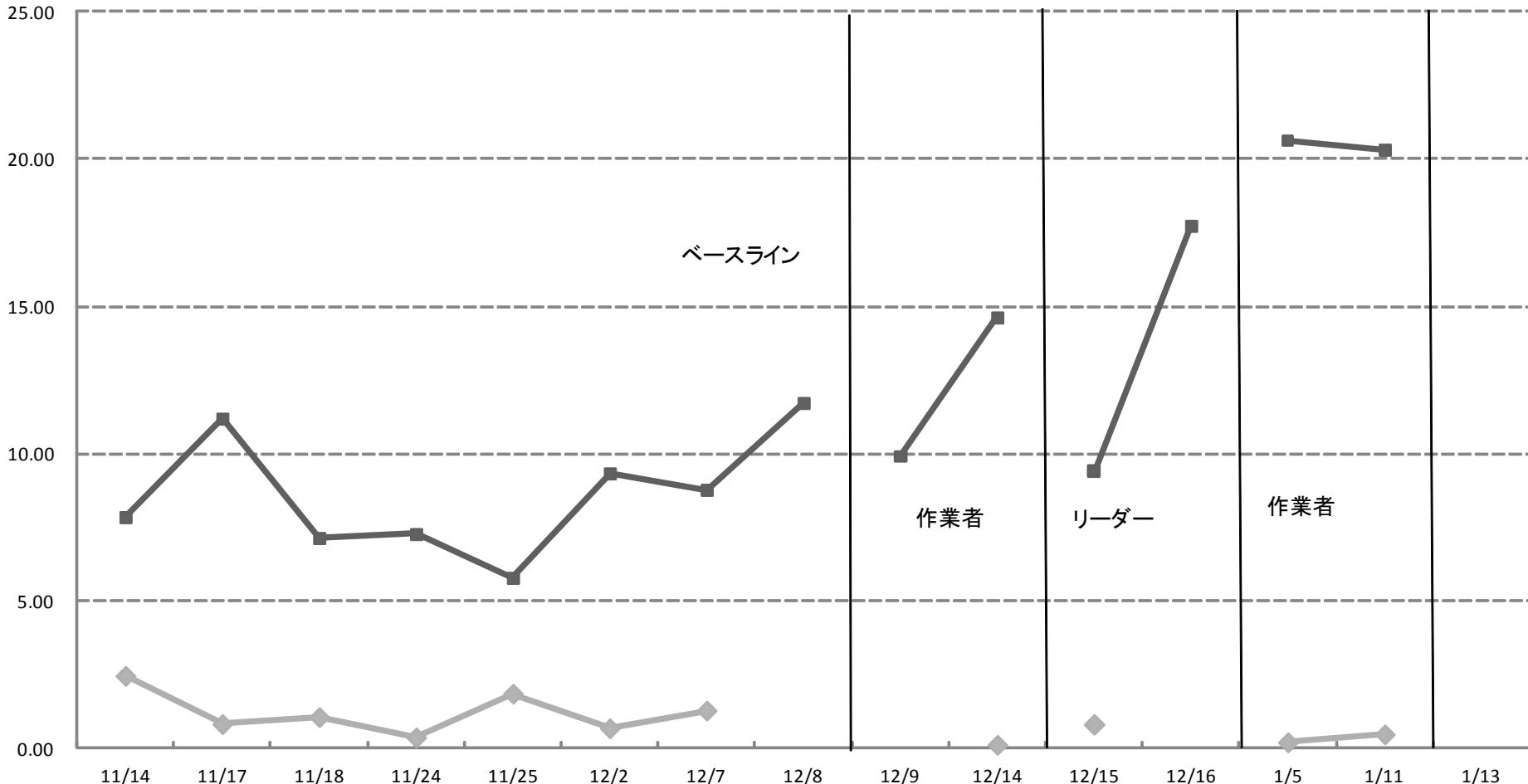
## ● 目標設定の置き方としては・・

- 1) 作業中は黙って作業に集中することが「できる」。
- 2) 他の人に休憩時間などを指示するリーダー役が「できる」。「リーダー」と「作業専業」の役割を区別することが「できる」。作業専業では黙って仕事が「できる」。

★ 『これ』 : リーダーという交代性の役割の設定。

# Cさんの作業効率と洗濯機を見る回数

■ 総量(kg)/予測作業時間(h)  
 ◇ 1分あたりの洗濯機見る回数



	11/14	11/17	11/18	11/24	11/25	12/2	12/7	12/8	12/9	12/14	12/15	12/16	1/5	1/11
作業量	7.86	11.20	7.15	7.29	5.80	9.34	8.79	11.73	9.90	14.63	9.41	17.74	20.61	20.33
洗濯機	2.4759	0.83807	1.075	0.38526	1.86875	0.69716	1.2972	無	無	0.134554	0.798908	無	0.219036	0.487565

# 現場での実習支援から 模擬店舗での実習支援へ

- ・大学内に設けた模擬喫茶店舗 (Café Rits)



# Café Rits



## 事例2 B君

- 確立操作と後続事象から“行動問題”へ

状況 (確立操作)	業務に慣れてきた (スタッフからのフィードバックが少なくなった)
先行事象 (弁別刺激)	客の姿 + スタッフの準備する姿
反応(行動)	想定されていない業務に手を出す
後続事象 (結果)	「それはやらないで」

⇒ 寝ころんだり、声を上げるなどの行動が出現

# 事例2 B君

- ・後続事象の変化で、適応的行動へ

状況 (確立操作)	業務に慣れてきた (スタッフからのフィードバックが少なくなった)
先行事象 (弁別刺激)	客の姿+スタッフの準備する姿
反応(行動)	想定されていない業務に手を出す
後続事象 (結果)	「ありがとう、助かったわ」

⇒さらに、業務を自ら拡大していく

# 「できる」とは

- ・当事者が 自らやりがいをもってすること  
⇒正の強化で維持される行動
- ・「行動」：先行事象—反応—後続事象  
という枠組み（三項随伴性）として出現
- ・ジョブコーチ支援：先行事象/後続事象 の補助
- ・援助付きの「できる」

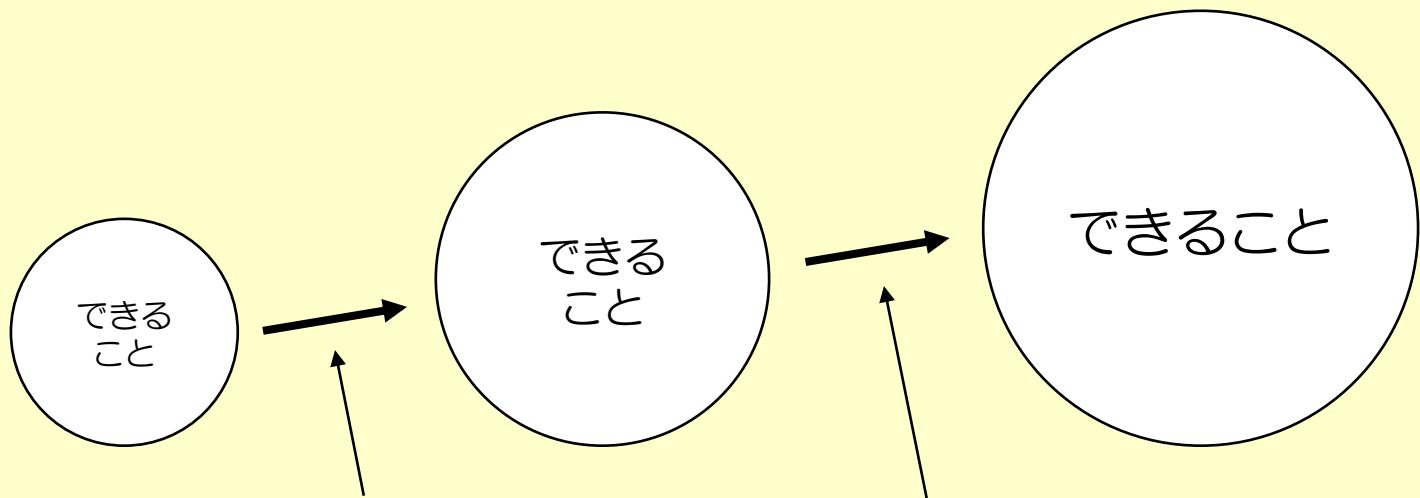
# 援助

- 伝えないとわからない
  - 情報の意義
- 試してみないとわからない
  - 試す場面の意義
  - 試すことで、情報は拡充・加速する

# 学生ジョブコーチ支援による 模擬喫茶店舗で情報を作る

- ・情報を「作る」
- ・場面、環境込での行動
- ・試すことでわかる「援助」
  - ・試してみないとわからない
  - ・試すことで「できる」ことを発見、記述することができる

# 情報ができることを増やす



# 断続的な支援

- ・場面、環境が異なる状況で「寄り添う」支援者たち
- ・行動とは、環境との相互作用で決まる
- ・環境が変われば、行動も変化
- ・学校で見ている支援者
- ・福祉場面で見ている支援者
  - ・同じ対象者、同じような行動に見えても環境が異なることで、違う行動になっている可能性
- ・そこに情報の齟齬が生じる
- ・齟齬こそ重要
  - ・情報を突き合わせることで、どのような環境下で、どのような行動が生じたり生じなかったりということが見えてくる
  - ・情報が膨らんでいく
  - ・そこから、キャリアアップを加速できる

# 継続的な支援のために

- ・支援は、相対的に短期的な支援が断続的に連なっている
- ・継続性を持たせるために情報が必要

# 支援の断続性

- ・断続性が情報を膨らませる
- ・それによってキャリアアップが可能となる

# 「できますシート」を書く

- ・「できますシート」を書く行動も、児童・生徒が示すさまざまな「できる」と同じ行動です。
- ・その行動がうまく維持されるようにセッティングが必要です。できれば正の強化で。

# 「できますシート」を書く

- ・もっと“カジュアルに”

障害福祉施設アルス・ノヴァでは、施設利用者や支援者ひとりひとりの長所を可視化し共有する記録用紙「ヒトマト」を開発し(石幡・田中, 2013)、各支援者の物の見方を活かしながら、各利用者の長所に即した支援を模索してきた。その背景には、一般的に問題とされる行動をその人の表現として読み替える価値観と、支援や振本企画の前半では、こうした価値観と試行錯誤の下、実現した支援の事例を紹介する。これらの事例は、問題視されたり見過ごされたりしがちな利用者の行為を見逃さず、新たな意味や価値を見出した各支援者独自の目線が、その後の支援の可能性にとって重要な役割を果たすことを示唆している。

り返りの行き詰まりの打開を目指す試行錯誤があった(石幡・山下・佐藤・田中, 2013)。  
ヒトマト: 放課後等デイサービスの支援終了後に毎日行う記録用紙、人マトリックス

# 文献

- 望月 昭 (2010) 「対人援助学の可能性」 (福村書店) 、  
第1章。
- 中鹿直樹 (2010) 同上. 32-58.
- 中鹿ら (2013a) 「知的障がいのある高等部生徒の就労実習における職業行動への自発的関与を促進する条件」 日本行動分析学会第31回大会。
- 中鹿ら (2013b) 「プロファイリングからポートフォリオへ：学生ジョブコーチの実践から支援をつないでいくために「情報」について考える。」 対人援助学会第5回年次大会発表論文集、50.
- 中鹿直樹・望月昭 (2014) 企画・話題提供. 障害のある児童・生徒の継続的支援のための情報共有の仕組みについて. 対人援助学会第6回年次大会企画ワークショップ. 大会発表論文集, 9.